

介護事業者のための M&A講座 第2章

第1回 新たなフィールドへ

新たな職場で 再スタート

本編に入る前に、私事になりますが、皆様にご報告がございます。すでにプレスリリースされており、ご承知の方もいらっしゃると思いますが、私は、5月6日付けでメディカル・ケア・サービス(株)の取締役を退任致しました。そして、5月16日付けで(株)日本介護福祉グループの取締役就任することとなりました。前職においてお世話になった皆様方、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻頂きますよう、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

高齢化社会の 問題は山積み

いであります。

前置きが長くなりました。したので、紙面の都合もあり、M&A戦略の解説は、次回からさせていただきます。本稿では、せっかくの機会でありますので、今回の私の移籍に関する想いを記載させていただきます。

私は、2003年より介護業界に足を踏み入れました。7年間、業界で活動が続け、我が国の高齢化問題について、介護業界の課題、医療や社会保障制度など、多くの問題を現場で認識し、今後の将来に強い危機感を感じました。この大きな問題に、私の微力を尽くして解決に向けた取り組みを行っていきたくと考えるようになりました。

さて、本稿より新連載と題しておりますが、年初より新たに「介護事業者におけるM&A戦略」と題した連載をスタートしたばかりでございます。従って、所属する企業は変われど、これまでの私の経験に基づきお話をさせて頂き、皆様のお役に立つ情報提供をこの機会、前回からの連載テーマを引き継

前職は上場企業に所属しておりましたので、そのような公的な取り組みには、多くの制約が存在すると考え、深く思索した結果、今回、新たなフィールドに身を移し、(株)日本介護福祉グループ

の繁栄に全力をあげると共に、我が国の高齢化問題、とりわけ介護業界全体の変革に取り組んでまいりる決断を致しました。皆様と共に、この介護業界を健全な産業へと育成し、一人でも多くの高齢者が安心して穏やかな生活を過ごせる国にしていきたいと考えております。皆様のお力を是非、お借りしたく、よろしくお願い申し上げます。

FC主体に 243拠点

1. ビスの質にこだわりの続けた運営をおこなっている企業です。

最後に、私が所属することとなった(株)日本介護福祉グループについて概要を申し上げます。小規模デイサービス、ビスのフランチャイズ本部におけるパイオニアであり、平成22年5月現在、全国に「茶話本舗」ブランドにおいて直営事業所14事業所、フランチャイズ事業所229事業所を展開しております。民家改修、小規模、少人数によるご利用者様主体のコンセプトで介護サ

本連載では、私の前職での経験と今後の(株)日本介護福祉グループでの活動を基に、介護事業者におけるM&A戦略の要諦を解説してまいります。

次回は、M&A実務9つのポイント。2つめのテーマである「買い案件であるか否かの判断となるデューデリジェンスのポイント(売り手の立場での売断基準)」についてご説明致します。



日本介護福祉グループ
取締役 経営企画部長
齋藤正行氏

■プロフィール
大手コンサルティング会社において外食チェーンの事業再生等を手がけ、その後、グループホーム運営大手のメディカル・ケア・サービス(株)において取締役運営事業本部部長を経て、2010年5月より(株)日本介護福祉グループの取締役経営企画室長に就任。